

令和3年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和3年12月13日(月)
午前10時～

1 開会

事務局より、配布資料の確認
会長より、第2回議事録の承認

2 議題

(1) 令和4年度助成金事業について

事務局より、令和4年度助成金事業見直し内容について説明

○はじめの一步部門の応募期間を拡大し、9月末までいつでも応募できることとし、まちづくり会議委員にも審査に関わっていただく。

- ・ 随時募集において、事業の案件に応じて選任することでもよいのではないか。
- ・ 日程調整が可能であれば、学識経験者を入れる若しくは相談できるような体制が望ましい。
- ・ 最近では、少額の助成金は書類審査のみにするなど、迅速化を図る動きが多い。
- ・ 審査会の日程調整がタイトになる可能性があるが、迅速に交付決定までできるように進めてほしい。

(2) 協働まちづくり指針策定ワーキングについて

事務局より、指針策定ワーキングの進捗について報告

○ワーキングで検討し選定した協働をめぐる諸課題は、大きく3つ「活動や成果の情報発信」「多様な人の参画」「持続可能な活動のための仕組みづくり」に整理され、今後各課題に対する解決策の検討を行っていく。

・ 現在、名古屋市(市民活動促進基本方針)、豊田市(市民活動促進計画)、半田市(市民チャレンジ協働プラン)がパブリックコメントを行っている。

・ ワーキングで検討する内容なのか、まちづくり会議で意見すべきものかは今後の話だが、協働をめぐる諸課題の中には「協働」をどう考えるのかという議論もある。

蒲郡市は「協働」を使っているが、豊田市は「共働」とし協働よりも広い概念で使っている。安城は「協創」を意図的に使っている。どこに重きを置くか、それぞれのまちが描くコンセプトによって表現が変わる。例えば、企業との連携や、アイデア出しから一緒にやるなど、個別の議論ばかりでなく、もう少し大きい視点からの議論も必要ではないか。

- ・共創／協創として、行政課題だけの議論の場ではなく、みんなの課題や夢を議論する場としていくことも大事だと思うが、前段階としての情報の共有についての課題に対する意見が多かった。
- ・協働のイメージは、結果的に行政の下請けになってしまっているように感じている。
やりたいことを共に、一緒に作っていけるとよい。
- ・以前から出されている課題がほとんどのため、どのように一石を投じることができるのか、展望が見えない。
- ・課題に対し、評価と振り返りを行い、できていないことに対してアプローチすることが必要ではないか。
- ・自分事とする際に、「正しいからやる」だけではなく、「関わることの楽しさ」もセットでやっていかないといけないのかなと感じている。
また、課題をいかに解決するのかという側面だけでなく、他方で、自分たちの未来を考え、こういうことをやれたらよいといった前向きに考えられるような取組をやっていくことも大事なのではないかと思う。
- ・自分事とするには、ワクワク感が大事だと思う。
- ・身近な地域に落とし込んで考えていくことがワクワク感につながるし、また、展望を考えやすいように感じている。
- ・行政からではなく、市民からの提案で進める方法は進みやすい。若者議会での政策提案も良かったので、若者の意見を活かしていけるとよいと思う。
- ・課題からではなく、こういうまちにしたいというビジョンを共有することから課題が見えてくると思う。
- ・地域の総代や民生委員などで行っている地域支え合い会議では、話し合うだけでなく、実行することができているので、よいなと感じている。
- ・まちづくりの目的、どういうまちにしたいのかをみんなが考え、共有した上で、何をやっていくべきかを掘り下げて考えていくことが大事ではないか。
- ・校区単位で将来のビジョン（自分たちがどういった暮らしをしていくか）をいろいろな人たちで考えていくことが大事ではないか。

(3) 令和4年度協働モデル事業について

事務局、若者議会運営委員会より、モデル事業案について説明

○多文化共生地域づくりのスキーム検証について

- ・困っている外国人の方の相談先として、日本語教室が拠点となり利用できることよい。
- ・モデル事業が単年度で終わってしまうことが多いが、最終的に事業化を想定しているのか、ビジョンを示してほしい。
- ・地域に暮らす外国人へ生活ルールを教えてあげたくても、どのように接したらいいのかが分からない。
地域の人々が外国人を受け入れられる環境づくり、意識づくりということから必要になるのではないか。

- ・大学の中に留学生の相談室があったり、電話の相談があったりするの、ゆるりとしたところから始められるといいのではないかな。
- ・外国人に限定しなくても、柔軟に仲間を作っていける子どもを核として考えてみてもいいのではないかな。
例えば、学校に地域の相談役を担う人を配置すれば、外国人だけでなく高齢者など広く対象として考えられる。
- ・時間をかけてやっていくものなので、イベント的なものよりも日常的な交流、自然体でお互いのことを知ることをやっていくことが大事ではないかな。
- ・バディシステムは、外国人に対し、指導するのではなく、共に支援する人が、様々な活動と一緒にやっていくものである。
具体的な地域の活動に少しずつ入っていけるとよい。

○蒲郡若者人材バンクについて

- ・政策提案について、具体的でよい案であったので、若者が考えて発表して終わりではなく、実際に若者が実践していけるとよい。
- ・モデル事業でやるべきことなのか、助成金のスキームでやった方がよいのかは考えた方がいい。
- ・個別事業のイメージが沸きにくいけど、例えば多文化共生事業に組み込んでやってみるということも可能かもしれない。
- ・一定程度自立的にやっていくための取組をどのように進めていくのかを考えておく必要がある。例えば、他の取組みへ若者を派遣していくとなると一つのスキームとなってくる。(お金の流れもある)
- ・若者同士が互いのスキルをつなげるためのバンクのイメージでなく、若者の視点や意見を必要とする地域や団体などに派遣するイメージを持っている。
- ・ビジネス的なマッチングや、要望に応じた派遣として起業的にやってみるのもよいのではないかな。
- ・他の助成金事業と一緒にやっていくことも検討の余地がある。
- ・優秀な若者の出番、役割をどのように作っていくのかを考えることが大事である。
- ・コミュニティスクールなどで、若者との連携を必要としているのではないかな。
- ・若者議会で出た政策について、助けてくれる大人を募集してはどうか。

3 その他

次回開催時期について

第4回は令和4年2月14日(月)午前10時からの開催を予定